

都学歯広報

T O G A K U S H I ★ K O H O

126
2019.11



平成30年度
「歯・口の健康に関する図画・
ポスターコンクール」優秀作品
保育所・こども園・幼稚園の部
第1位
私立玉川学園幼稚園(年中4歳)
鶴代叶夢さん

CONTENTS

- 令和元年度 島しょ地区支援・
歯科保健事業活動報告……………2～3
- 地区学校歯科医会からのメッセージ……………4～5
小金井歯科医師会学校歯科医委員会／
多摩市学校歯科医会
- 第70回関東甲信越静学校保健大会(新潟)
及び歯科職域部会に参加して……………6～7
- 東京都学校歯科医会 各種委員会紹介……………8
広報委員会／学術研究委員会
- 「mil-kin(見る菌)」を学校現場での使用法……………9
練馬区学校歯科医会
- トピックス……………10～11
令和元年度 第1回参事会／城東地区学校歯科医
会連合会役員連絡協議会／令和元年度 健康づく
りフォーラム／令和元年度 歯・口の健康に関す
る作文審査会／令和元年度「歯・口の健康に関す
る図画・ポスターコンクール」審査会及び優秀作
品の展示／令和元年度 ブロック別学校歯科医研
修会
- 第54回東京都学校歯科保健研究大会・予告……………12
- 書家・金澤翔子さんの「書」の展示について……………12



令和元年度 島しょ地区支援・ 歯科保健事業活動報告

学術担当理事 鈴木あい子



東京都大島町立つつじ小学校、第三中学校からの要請を受け、歯科保健活動の向上を目指し、児童生徒の健康増進を図るために、令和元年7月16日（水）～17日（木）にかけて歯科保健活動支援事業を行ったので報告する。酒井克典事業担当理事、澤田章司専務理事、鈴木あい子学術担当理事の3名が参加した。

7月16日

9：00 調布飛行場発（天候が雨で着陸できない場合は引き返すとした条件付きの出発）

9：45 伊豆大島空港着（天候・雨、無事到着）。東京都大島町教育文化課学校教育係主事 関野美和子様が自動車でお出迎え。

つつじ小学校到着。つつじ小学校 小杉東子養護教諭とご挨拶。

控室にて樺沢一彦副校長とご挨拶、田代紳一郎校長と面談。

保健室で歯科の標語を選定（都学歯に提出）。

小杉養護教諭から日頃の歯科保健活動について報告を受けた。

11：15 つつじ小学校6年生10名 ライオン小学生歯みがき大会DVD（酒井理事担当、澤田専務理事および鈴木担当理事は補助）

12：00 給食：夏野菜カレー、チキンサラダ、
飲み物はセレクト

子供たちと一緒に食事。

各学年とも、給食後の歯みがきは、数名が行っていた。

13：00 第三中学校 1・2年生21名へ染め出し歯みがき指導（酒井理事担当）

※第三中学校はつつじ小学校と同じ敷地内にある

つつじ小学校 4・5年生21名へ歯科講話（鈴木担当）

歯科講話終了後、4・5年生ほとんどの児童が歯みがきを行った（成果）。





15:00 町役場にて養護教諭と担当学校歯科医への研修会

澤田専務理事より「独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度の改訂」

酒井理事より「定期健康診断時の配慮について」（主にプライバシーの配慮について）

7月17日

9:45 町役場にて、東京都大島町町長 三辻利弘氏を表敬訪問。

橘田竹弘副町長も同席し面談。

大島医療センター、ドクターヘリ等々最近の大島医療事情について。

11:30 大島空港発（天候・曇り）

12:00 調布飛行場着（天候・曇り時々晴れ 無事到着）

「へき地教育振興法」成果

平成30年度の伊豆諸島におけるう歯の罹患率は依然として小学校・中学校ともに全国および東京

都と比較して高い状態にある。また中学校の歯周疾患要観察者においても、東京都平均値より大幅に高い結果となっている。さらに歯科健康診断後の受診率が中学校で大幅に減少しているといった憂慮すべき状態であるため、学校歯科保健活動の向上が求められていた。

東京都学校歯科医会では「へき地教育振興法」の精神に則り、大島町立つつじ小学校、第三中学校において学校歯科保健活動の支援を企画した。

「へき地教育振興法」は、教育の機会均等の趣旨に基づき、へき地における教育の特殊事情にかんがみ、教育の水準の向上を図ることを目的とする法律であり、都学歯としても島しょ地区へ赴いて歯科保健活動を支援し、もって子供たちの健康増進の一助になった。

また、公益社団法人に移行した本会としては、都民により開かれた公益性のある事業の推進が求められていたもので、公益性の高い事業となった。今回実施した児童生徒のための歯科保健教育並びに学校関係者に対する講習会は、教育委員会や養護教諭から非常に有意義であったとの高い評価を頂いた。

今後の課題

へき地においては、一般教諭を含め養護教諭は3年程度で異動することが多く、今回も新任の養護教諭がいる中で、全体のレベルアップにつながったことは確かであるが、東京都学校歯科医会としても継続した活動を実施していかないと、児童生徒への歯科保健活動も単発に終わり、継続した子供たちへの健康増進が図られないのではないかと危惧された。

地区学校歯科医会からのメッセージ

小金井歯科医師会学校歯科医委員会

代表 古田昭彦

小金井市は、東京都のほぼ中央部に位置します。人口は12万2千余名で40歳代が最も多く、続いて30歳代～50歳代の子育て世代およびそのOB世代が居住する街です。また100歳以上も60名余が居住されている長寿の街でも有ります。市内は武蔵野台地の南西部、有史以来の多摩川の流れにより関東ローム層が削り取られて出来た河岸段丘に有ります。その為市内の標高差が30mあり、西北西～東南東に走る崖、通称「はけ」が存在します。今でも「はけ」より湧水が湧き出して、市内の散策マップにも掲載されております。また市内北部には、明治天皇由来の都内有数の桜の名所として名高い「都立小金井公園」が有り、週末には運動施設・フィールドアスレチック・バーベキュー施設などで賑わっています。さらに都立武蔵野公園、都立野川公園など市内には緑が多く存在する自然豊かな街です。また小金井市の特徴として、工場施設が1か所もありません。その代わりとして3つの大学（東京農工大学工学部、東京学芸大学、法政大学工学部）、公立私立4つの高等学校があります。また市内小中学校14校と合えますと、まさに学園都市と言っても過言ではないように思われます。このようなフィールドがわたくし共「小金井歯科医師会学校歯科医委員会」の活動場所になります。そもそも小金井歯科医師会は北多摩歯科医師会より昭和55年3月、社団法人東京都小金井歯科医師会に独立し、その後一般社団法人東京都小金井歯科医師会に移行して現在に至っております。小金井歯科医師会は創設当初より会員互助の精神により「和気あいあい」を良しとし、基本的に会員全てによる学校検診事業を展開して参りました。私が小金井歯科医師会に入会しました平成元年当時も、学校歯科医は「輪番制」と言う会員平等システムを踏襲しておりました。もちろん学校歯科医報酬、検診報酬も全て小金井歯科医師会の会員互助のシステムである「福



祉共済会」の原資となって参りました。しかし昨今の超高齢社会の波は当歯科医師会も同じとなり、歯科医師会単独の自家共済制度に無理が生じる懸念が出て参りました。そのため、わたくし共歯科医師会執行部は、2期4年を費やし「福祉共済会」の今後を、年長会員から入会間もない会員まで全ての会員にレクチャー、説明会を重ね、慎重に協議致しました。その結果、昨年平成30年6月総会で「小金井歯科医師会福祉共済会」の発展的解散が議決承認されました。これにより学校歯科医、学校検診業務について行政と連携した新しい学校歯科保健組織を構築する事になりました。その手始めとして「小金井歯科医師会学校歯科医委員会」の創設でした。学校歯科医の「輪番制から専任制度」への変更が最初の大改革になりました。今回のシステム変更により、従前に会員より希望を募り、執行部にて精査し、適材適所に学校歯科医を承認して決定致しました。今回の都学歯入会も、このような準備を経て実現致しましたしだいです。最後になりましたが、創設間もない小金井歯科医師会学校歯科医委員会を何卒ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

小金井歯科医師会 学校歯科医活動報告

- ① 学校教育法より毎年4／1～6／30日までに
市内公立小・中14校健診
- ② 市内公立高校（特別支援校含む）、私立中・高 6校健診
- ③ 学芸大学附属幼稚園、小、中、学芸の森保育園
- ④ 市内公立保育園5園、私立保育園1園、私立幼稚園1園、以上31
- ⑤ 小学校9校の就学時健診、衛生講話
- ⑥ 小・中14校学校保健委員会参加

多摩市学校歯科医会

会長 久保雅幸

私たちの多摩市は、かの新田義貞が鎌倉幕府軍と戦った関戸古戦場があったり、多摩ニュータウンが広がっていたりということで知られていると思いますが、隠れた名所を一つ紹介したいと思います。都立桜ヶ丘公園というところがあります。公園のほぼ中央に位置する旧多摩聖蹟記念館は、ここで、明治天皇がうさぎ狩りや鮎漁のため何回も訪問（行幸）されたことを記念し、明治維新の元勳田中光顕が建設した歴史的建造物です。近くに「みゆき橋」という地名もあります。その旧聖蹟記念館は多摩市指定有形文化財にも指定され、館内には大きな明治天皇の騎馬像の他、坂本龍馬・武市半平太・西郷隆盛・高杉晋作・木戸孝允・大久保利通たちの書画を数多く展示しております。そして私の年代（昭和41年生まれです）にたまらないのは、この旧多摩聖蹟記念館は仮面ライダーの敵役の悪の秘密結社、ショッカーの秘密基地だったということです。正確には秘密基地としてのロケ地だったのですが、入り口前の場所などは、死神博士率いるショッカーと仮面ライダーが死闘を繰り広げていたところなのです。

そんなショッカーの秘密基地のある多摩市で、私たち多摩市学校歯科医会は現在会員数29名で活動しております。そして、全会員が東京都学校歯科医会、日本学校歯科医会に入会しているのは誇りであります。本会は、地域歯科保健の一環として学校保健の普及、発展につとめ、且つ会員の研修と情報交換を図ることを目的としております。そのために学校保健行政並びに関係団体への協力、学校歯科保健教育の実践並びに学校歯科保健事業の推進、学校歯科保健に関する研修、調査と



研究、その他本会の目的達成に必要なことを行なっております。例年の活動としましては、学校での児童生徒さんたちへの歯科健診、小学校入学予定者への就学时歯科健診、また多摩市の特徴的で誇れる事業である多摩市学校歯科保健推進事業に基づいた小学校四年生と中学校一年生対象に歯科保健指導の授業と小学校一年生対象に御本人負担無料のフッ化物塗布と歯科講習会などを行なっております。さらには、多摩市学校保健会にも所属して、多摩市役所、多摩市医師会、薬剤師会、校長会、養護教諭部会、栄養士の先生方、保健所の方とも年に6回会議を行い、連携を取っております。

ここ数年は多摩市の目指す「スマートウェルネスシティ（健幸都市）」の方針に則り、「お口の健幸まつり」を、八南歯科医師会多摩支部、多摩市役所健康推進課、教育委員会学校支援課と共に行っております。その中で多摩市内の小学生中学生を対象に「多摩市 歯・口の健康に関する図画ポスターコンクール」を行い、応募作品の全てを展示して、最優秀賞など入賞作品製作者には多摩市長、多摩市教育長をプレゼンターとしてお招きして、表彰状や賞品を渡すなど表彰式を行い、好評を博しております。

私達の頑張りは、児童生徒さんたちのむし菌の減少や歯周病の減少として実を結んできています。今後も児童生徒さんたちの健康のために、がんばっていきたいと思っております。

第70回関東甲信越静学校保健大会（新潟） 及び歯科職域部会に参加して

学術担当理事 小森幸道



令和元年8月1日（木）及び2日（金）の2日間において、第70回関東甲信越静学校保健大会が開催されました。大会の目的は、「幼児・児童・生徒の心と体の健全な発育・発達を目指し、健康教育の当面する課題について研究協議し、その具体的な方策を究明するとともに、健康教育の充実と発展に資する」というものであります。また、主題は、「健康でたくましい心身をはぐくむ教育の充実を目指して」でした。

1日目は、15時30分よりアートホテル新潟駅前4Fにおいて歯科職域部会が開催されました。本年度の当番県は一般社団法人新潟県歯科医師会でした。新潟県歯科医師会専務理事の佐藤圭一先生による司会のもと、新潟県歯科医師会副会長の山下智先生により開会の辞がなされました。続いて、新潟県歯科医師会会長の松崎正樹先生がご挨拶されました。来賓祝辞は新潟県教育委員会教育長の稲荷善之様と日本学校歯科医会副会長の齋藤秀子先生が述べられました。今回の出席者報告の後、日本学校歯科医会関係報告が副会長の齋藤秀子先生と専務理事の長沼善美先生より述べられました。

次に、特別講演では、講師の先生は新潟大学大学院医歯学総合研究科教授の葭原明弘先生が、演題「学校歯科保健活動－新潟県における取組からの検討－」を講演されました。講演の一部を紹介しますと、ポピュレーション・ストラテジーの効果（血圧と脳卒中予防）のご説明で血圧を5%下げると、脳卒中罹患が30%減少し、英国では、毎年75,000人以上の脳卒中を予防できるということでした。また、新潟県ではむし歯の問題をどう考えたかについては、1. むし歯そのものの発生を抑制する、すなわち治療ではなく、むし歯にならないことを優先する。2. むし歯は個人の努力だけでは防げない、すなわち社会全体で支える仕組みが必要。3. 集団全体への予防対策（ポピュレーション・ストラテジー）が必要等でした。新潟県の12歳児のむし歯数は全国最少で平成12年より

19年間連続で日本一でした。その他、小児期のフッ化物洗口が成人期にもたらす効果や新潟県歯科保健推進条例（平成20年）のご説明もありました。2020年11月14日には「むし歯予防全国大会 in 新潟（仮称）」が開催される予定だそうです。さらに、新潟県における学校保健活動の取組（学校等におけるフッ化物洗口の実施など）のご説明も拝聴しました。他にも多くのご内容ご説明があり、とても有意義なご講演をいただきました。

特別講演が終わり、次期当番県として、長野県歯科医師会会長の伊藤正明先生よりご挨拶がありました。最後に、閉会の辞は、新潟県歯科医師会副会長の亀倉陽一先生により執り行われ、懇親会へと移行しました。

2日目は、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにおいて開催されました。開会式の後、特別講演が行われました。講師には、東京大学大学院教育学研究科身体教育学コース健康教育分野教授の佐々木 司先生がお招きされ、演題は、「児童生徒の精神的健康と自殺予防」でした。佐々木先生は、精神疾患の遺伝・環境要因の解明に関する研究を続け、英文専門誌を中心に300編ほどの論文を発表されてきました。1993年から96年には、カナダのトロントに留学されております。また、2010年より現職を務め、児童生徒や教員のための精神保健教育プログラムの開発、いじめ防止プログラムの開発、保健室で使う精神的健康評価のアプリケーションにも取り組んでおられます。本報告書の後半に、今回のご講演内容について紹介させていただきます。

次に班別研究協議会について報告します。第4班が「学校歯科保健」に関するもので課題は、「生活習慣病の予防等を目指した歯・口の健康づくり」でした。協議内容は、『歯・口の日常化を目指す学校歯科保健活動の在り方－自ら歯・口を大切にする児童を育てる歯科保健活動の実践－』であり、提案者は、栃木県宇都宮市立陽南小学校養護教諭の先生でした。もう一つは、『家庭及び

地域社会との連携による学校歯科保健活動の在り方－思春期特有の美意識に働きかけ、生徒自らに「真の健康美」を求めさせる－』であり、提案者は、埼玉県羽生市立西中学校養護教諭の先生でした。他、指導助言者（明倫短期大学教授）、司会者（三条市立第四中学校養護教諭）、記録者（新潟市立青山小学校養護教諭、新潟市立光晴中学校養護教諭）、運営係（新潟市立山潟小学校養護教諭、新潟市立潟東小学校養護教諭）の各先生方により協議会が構成されました。

参加者の中からも活発な意見交換がなされ、とても意義ある協議会となりました。

【特別講演内容（講師：佐々木 司先生）】

精神疾患の発症・生活への影響は10代で急増し、子供の精神疾患には思春期前に始まるもの（ASD、ADHD等）と思春期・青年期に始まるものがあるということでした。精神疾患に罹患した大人の半数は、10代半ばまでに発症し（認知症は除く）、自殺も精神疾患と同じ年代（から少しあと）に急増する。自殺のリスク要因としては、精神疾患（自殺者の9割と推定）、自殺未遂歴、自殺の家族歴、性差（男＞女、2.5倍）、イライラしやすく激しい性格、喪失・絶望・飲酒・睡眠不足、致死的手段が手近にあることなどが挙げられました。日本人の自殺は全体では減少していますが、若年者は減少していないそうです。思春期の感情・行動変容と注意点では、仲間意識の強さ、視野が狭く思い込みにはまりがち（一途）、攻撃性が高いことなどが挙げられました。精神疾患は、とても多くの人に起こり、生活を大きく妨げます。癌や心疾患よりも精神疾患のほうが多いくらいです。日本人の5人に1人が一生の間に何らかの精神疾患にかかるそうです。ここで、精神疾患の特徴についてのご説明がありました。1. 気付にくい（症状は、普段からあるものであり特別なものではない）。特に子供においては身体不調（だるさ・頭痛・腹痛・耳鳴り・めまいなど）と考える人が多い。2. 相談しにくい。すなわち、不調に気付いても対処をためらいやすかったり、本当に心配な人ほど相談しない（いじめにあっていて、かつ死にたい気持ちの人は相談しない）。3. 回復まで時間がかかりやすく、再発も少なくない。例えばうつ病では、回復には数ヶ月

かかり、長期間の休養が必要だったりする。よって、早く気づき、早く対処を始めることが重要であり、正しい知識や教育（不調に気付けるなど）の必要性があるとのことでした。日本でも高校の保健体育では、2018年の指導要領改定で精神疾患教育が必修化されております。また、東京大学の研究室で作った授業の中には、精神疾患の特徴、自分でできる予防策、具体的な精神症状などが含まれております。授業のポイントは、心の不調や病気は思春期から急増し生活習慣が影響していることが挙げられました。

日本人全体で、睡眠時間が年々減少しています（思春期で最も顕著）。また、現在の日本の中高生では不健康なレベルまで減少しているそうです。さらに、アジアは、ヨーロッパやアメリカに比して睡眠時間が少ないことも挙げられました。睡眠時間が短いほど「うつ」のリスクが高まります。夜中のスマホ・携帯の使用により睡眠時間がさらに減少するので、スマホ・携帯は最初に買い与える時に「決まり」を保護者と子供で決めるといいそうです（何時までに終える、寝室に持ち込まないなど）。睡眠習慣以外に注意することは、運動習慣（スポーツでなくてもよい）、飲酒・喫煙させない、いじめの問題などが挙げられました。飲酒・喫煙を防ぐには、周囲の大人が自分の行動で注意する必要があるということでした。

自殺の言動・行動をとる人は本当に死にたいのかに対しては、「死にたい」のではなく、「今を生きていくのが嫌」ということでした。深刻な自殺念慮を抱えている人にもしてあげられることはあるそうです。すなわち、話を聞くこと、入院などの保護処置をとる、自殺念慮が強い時に必要な対処・保護をとるなどでした。その他の対策として、連携の重要性についてもお話しされました。例えば、熊本県のシステム（こころの健康アドバイザー事業）では、全県を13地区に分け、地区ごとに学校と医療機関が連携しているということでした。

以上、一部を紹介いたしましたが、全体としてとても有意義な内容で勉強させていただきました。今後の関東甲信越静学校保健大会でも勉強させていただきたいと存じます。ありがとうございました。

東京都学校歯科医会 各種委員会紹介

広報委員会

末高執行部・令和元年度新広報委員会が、令和元年7月18日（木）16時30分より、末高英世会長出席のもと高橋裕幸広報担当理事の司会で開催された。新委員会は、岩立雅子・黒岩 一・氷見育夫・草柳英二・河原田倫代・宮寄至洋の6名の委員で構成され、通常の協議日程を終了した。東京都学校歯科医会における広報の歴史は、東京都学校歯科医会報創刊号が昭和34年1月10日に発刊されたのが始点だと考えられます。さらに昭和39年4月に「会誌1号」から継時的に発刊され、さらに昭和60年6月には会務事業の情報と学校歯科保健活動の資料提供等の目的から「都学歯広報創刊号」が発刊され、経歴が現在に至る。現在「会誌81号」「都学歯広報126号」まで発刊され、多くの



諸先輩の努力の結晶による都学歯広報委員会は、大きな足跡を「昭和・平成・令和」へと継承し、新広報委員会で時流の実績を後進に継続していく所存です。

学術研究委員会

東京都学校歯科医会会員の先生方こんにちは。この度、学術委員長を拝命いたしました、練馬区学校歯科医会所属の金田和彦と申します。任期は令和3年の定時代議員会までとなっております。この限られた2年間の委員会活動を通して、令和3年3月に冊子発行を目標としております。今回の学術委員会は、学識に東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科名誉教授の和泉雄一先生をお迎えし、私を含めて6名の委員（金田和彦委員長、峯岸大造副委員長、嘉部 暁委員、浜野美幸委員、平野光恵委員、矢野 章委員）で構成されております。

過去の学術委員会発行の冊子は、「にのいの科学」「乳幼児から考える学校歯科保健活動」のように膨大な量のアンケートを実施し、分析結論付けたものや、「味覚とおいしさの科学」「学校歯科医が知っておくべき放射線の知識」のように時代背景を反映した知識伝搬型のものなど力作が勢



ぞろいしております。

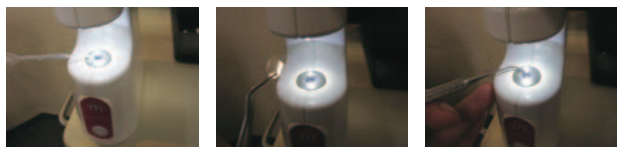
今回私達に与えられたテーマは「歯肉」。過去に学校保健指導の教材として多く取り上げられてきたテーマです。マンネリに陥らないように配慮しながら、会員の先生方が学校現場で行う保健指導のお役に立てる教材となりますよう委員会全員で取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

「mil-kin（見る菌）」を学校現場での使用法

練馬区学校歯科医会 総務理事 西 克昌

練馬区学校歯科医会では、
バクテリア・セルチェッカー
「mil-kin（見る菌）」を購入
しました。試料ステージにプ
ラークを載せてスマートフォ
ンで動画や静止画が撮影でき
ます。またモニターに繋げて
大画面に写すこともできます
ので、学校での歯科講話や
菌みがき指導にも利用でき
ます。

使用法は簡単です。

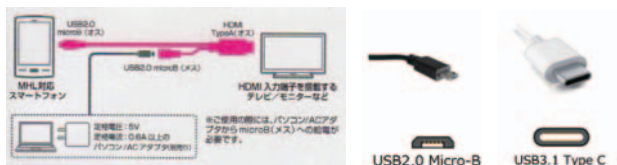


レンズに水を1滴垂らす。カ
バーガラスを載せる。プラ
ークを載せる。これだけで
スマホに画像が表示され、
プラークの細菌を観察でき
ます。

モニターに表示するにはアダプ
ターなどが必要になってき
ます。



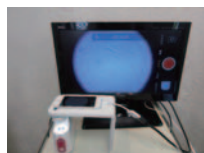
iPhone の場合、iPhone 用の
アダプターと電源コードと
HDMI 端子です。



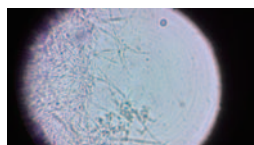
Android の場合も専用のアダ
プター、電源コード、HDMI
コードなのですが、接続端
子の形が台形の Micro-B の
端子のみ使用可能で、USB
Type-C の Android はコード
を直接繋いで画像を表示す
る機能がないようです。Type
-C はモニターに無線のアダ
プターを付けて Wi-Fi で送
って画像を表示させます。



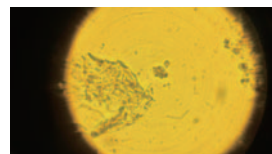
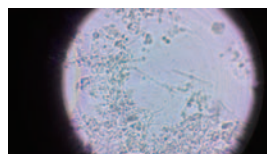
スマホに電源コードと HDMI
端子を付けたところ。



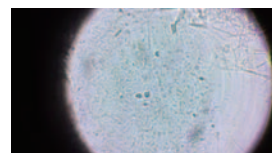
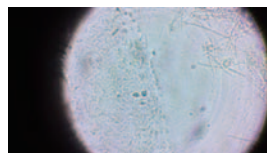
スマホの画像がモニターに
表示されています。



「mil-kin」で撮った画像で
すが、位相差顕微鏡と比べ
ると多少輪郭のはっきりし
ない部分もありますが、そ
の外形や動きは十分に観
察できます。そして何より
かさばらないので、どこ
へでも持ち運びが可能で
す。学校での歯科講話や
菌みがき指導のほか、先
生方の研修会、患者さん
のモチベーションアップ
など様々なところでの活
用が期待できます。



これは左の画像にイソジ
ンうがい薬を1滴垂らし
て右の画像になったとこ
ろです。動画ではないの
でわかりにくいですが、
動いていた細菌が一瞬
にして動かなくなりました。



これはプラークの左にペ
リオフィル（ミノサイク
リン塩酸塩）を置いてみ
たところ細菌が徐々に死
滅していく画像です。左
の画像では死んだ細菌が
左半分に積層していますが
、時間と共に画面全体を
覆うようになりました。

このように動画ですので
様々な細菌の変化をも観
察、記録ができます。学
校現場でもこの「mil-
kin」の可能性はまだま
だあると思われますの
で、ぜひ使用してみて下
さい。

トピックス////

令和元年度 第1回 参事会

令和元年度 第1回 公益社団法人東京都学校歯科医会参事会が、令和元年7月4日（木）15時30分より歯科医師会館3階第1会議室にて、澤田章司専務理事の司会で開催されました。末高英世会長挨拶に続き来賓挨拶として、東京都教育庁地域教育支援部歯科保健担当課長 山田善裕様、日本学校歯科医会会長 川本 強様、東京都歯科医師会会長 山崎一男様、東京都歯科医師連盟会長 大越壽和様よりご挨拶をいただきました。

参事会日程に従い、末高会長を座長に「報告・連絡」にうつり、①公益社団法人への移行②東京都学校歯科保健功労者表彰、学校歯科医30年勤続表彰について③学校歯科保健優良校表彰および歯の作文募集につ



いて④「歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール」「歯・口の健康啓発標語コンクール」作文募集について⑤学術報告⑥その他に関する事項の説明をうけました。長沼善美副会長の閉会の辞で終了しました。

トピックス////

城東地区学校歯科医会連合会 役員連絡協議会

令和元年7月11日（木）19時より東武ホテルレバント東京において、江戸川区学校歯科医会主管で標記協議会が45名の参加を得て開催されました。各地区からの活動報告と今年も都学歯に講演依頼があり、「災害給付（令和元年度改訂）について」と題して、山崎靖理事によるパワーポイントを使用しての講演が行われました。

その後は向島学校歯科医会会長の高田敬一先生の乾杯のもと、おいしい料理とともに各地区の情報交換が行われ、あっという間に次年度担当の向島学校歯科医会会長の丸山満博先生の閉会の辞を聞く時間になってしまいました。



トピックス////

令和元年度 健康づくりフォーラム

健康づくりフォーラムが令和元年7月25日（木）10時より、東京都庁第一本庁舎5階大会議場にて開催されました。開会、挨拶の後、「発育期におけるスポーツの意義と課題」という演題で、一般社団法人日本臨床スポーツ医学会理事長である川原 貴先生による講演が行われました。休憩をはさんで、午後からの特別発表は「学校環境衛生基準の一部改正と学校環境衛生のトピック」というテーマで、一般社団法人東京都薬剤師会副会長の石川哲也先生により行われ、17時に盛



会のうち、全日程が終了となりました。

トピックス////

令和元年度 歯・口の健康に関する 作文審査会

令和元年9月5日（水）15時より、歯科医師会館2階会議室において作文第一次審査会が行われました。本会役員17名及び広報委員会委員6名の審査員により、応募作品小学校280作品、中学校174作品の中から、厳正な審査が行われ、小学校70作品、中学校35作品の優秀作品が選出されました。



トピックス////

令和元年度「歯・口の健康に関する 図画・ポスターコンクール」審査会 及び優秀作品の展示

令和元年9月18日（木）15時より、歯科医師会館3階第1会議室において上記審査会が開催されました。審査委員長に国立大学法人東京学芸大学名誉教授の増田金吾先生を選出し、19名の審査員により審査が行われました。

保育所・こども園・幼稚園の部9作品、小学校低学年の部44作品、小学校高学年の部46作品、中学校の部32作品、高等学校の部6作品、特別支援学校・特別支援学級の部13作品の中から各部1～3位までの優秀



品を選出いたしました。

各部門の優秀作品は都営地下鉄市ヶ谷駅プロムナードギャラリーで下記の期間、展示いたします。

令和元11月14日（木）～12月12日（木）

トピックス////

令和元年度 ブロック別学校歯科医研修会

東京都教育委員会、東京都学校保健会、東京都学校歯科医会の主催で開催されました。本年度は、第1回が9月12日（木）18時30分から荏原歯科医師会館、第2回が10月10日（木）19時00分から荒川区立町屋文化センター、11月7日（木）18時30分から東久留米市庁舎で行われ、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授の川口陽子先生が講演して下さいました。テーマは「にのいの科学 知っておきたい口臭のABC～学校でのアンケート調査からみてきたこと～」でした。講演内容は、本会が実施した歯科保健調査の結果、口臭に関する基礎知識、児童生徒を対象とした口臭研究、東京都の学校保健統計、学校歯科医の役割についての構成でスライドをまじえ大変分かりやすく話



城南ブロック

して下さいました。

また、学校歯科保健で深く口臭を研究された大変興味深い内容で時間が経つのが大変早かったです。口臭の各種データを基に口臭を科学された貴重な講演でした。



城北ブロック



多摩ブロック

第54回 東京都学校歯科保健研究大会

期 日 令和元年 2 月 27 日 (木) 13:30 受付開始

会 場 文京シビックホール 大ホール

日 程 14:00 開 会

表 彰 式 学校歯科保健優良校入選校・学校歯科保健功労者・学校歯科医30年勤続

14:30 歯の作文 優秀作品入選者表彰・発表・講評

図画ポスターコンクール画評・入選者表彰

標語入選者表彰

15:15 研究発表 平成30・令和元年度 東京都学校歯科保健推進校(園)支援事業

調布市立若葉小学校

港区立青山中学校

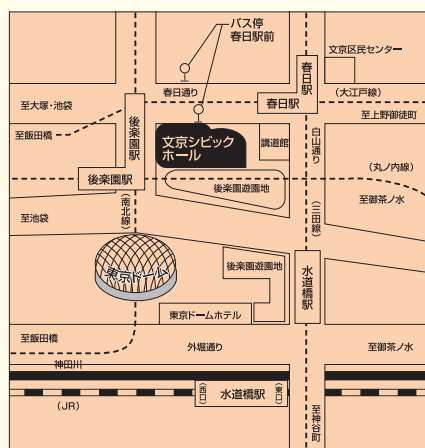
15:45 特別講演 「子供たちへの食育」(仮)

講師 公益社団法人 東京都栄養士会 会長

駒沢女子大学 人間健康学部 健康栄養学科 教授

栄養管理士 西村一弘

17:00 閉 会



文京シビックホール

〒112-0003 東京都文京区春日1-16-21

TEL 03-5803-1100

【最寄り駅】

- 東京メトロ丸ノ内線「後楽園駅」 →4aまたは5番出口(徒歩1分)
- 東京メトロ南北線「後楽園駅」 →5番出口(徒歩1分)
- 都営地下鉄三田線「春日駅」(文京シビックセンター前)
- 都営地下鉄大江戸線「春日駅」(文京シビックセンター前)
→文京シビックセンター連絡通路(徒歩1分)
- JR中央・総武線「水道橋駅」 →東口(徒歩9分)

書家・金澤翔子さんの「書」の展示について

東京都で開催された第80回全国学校歯科保健研究大会の開会式(平成28年11月16日)で書家・金澤翔子さんに席上揮毫していただき、その際に寄贈された「書」を歯科医師会館の4階・エレベーターホールに展示しました。歯科医師会館にお越しの際にはぜひお立ち寄りください。

